

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスぐんぐん		
○保護者評価実施期間	2025年11月25日		～ 2025年12月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2025年11月25日		～ 2025年12月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個性を活かしたプログラムを展開し、その時々で評価を行ない、次の活動に繋げている。個々の特性を活かせるようにしている。	・行事や活動を早めにスタッフ間で話し合っって計画を立て、実際に子ども達がどう関わられるか想像しながら準備している。	・個別支援計画書を読み込み目標達成できるように話し合いながら支援をする。
2	日々の成長や様子を観察し、子どもたちやご家族様にフィードバックすることで日常の成功体験を増やしていく。	・個々の観察を細かく行うことで、些細な成長を発見しスタッフ間で共有することにより、共に子ども達と喜びを感じ合いながら支援している。	・送迎時にご家族様と話し合いながら、担当者会議等でご家族の希望を聞き、実際に子どもたちの状態を観察して適切な支援が出来るようにしていく。
3	・個々のスタッフのスキルアップや法人内研修の充実を図ることによりスタッフの専門性を高めている	・毎年研修計画に則り、虐待防止や感染症対策のような義務化された内容だけでなく、障害理解や、差別解消など職業倫理観を深める研修を全職員が受講できるような体制で法人研修を行っている。	・外部講師を招いての研修やかけている研修内容が無いかを委員会とも研修計画を検討し、またさらに内容の充実を目指していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・部屋の数が少ないことで、クールダウンスペースが無い。 ・活発的に遊びたい子と、聴覚過敏の子が同じスペースで活動している。	・部屋の数が少なく、狭いのが要因。	・現在はパーテーションで区切って事務室や応接室、脱衣所などクールダウンスペースとして確保している。
2	・活動量が増えた子の動的な活動が出来にくい。	・フロアの狭さ、天井の低さ、男性スタッフがいなかったことが現状である。 ・駐車場に仕切りが無いため、道路へ飛び出しの危険性を考えると外での活動が出来にくい。	・楽しく体を動かせるように毎月のプログラムに組み込んでいる。 ・必要な人材の確保ができるまでの間、現任のスタッフで室内でもできる身体を動かして楽しめるような遊びを考えていく。
3	・専門性による支援	身体障害のお子様もいるが理学療法士や作業療法士の専門職の確保が出来ていない。	必要な人材の確保が難しい為、職員が研修や専門の先生に聞いたりしながら支援をおこなっていく。